



**亀田 達也 (KAMEDA Tatsuya)**

東京大学人文社会系研究科 教授

東京大学文学部社会心理学専修課程卒業、  
同大学院社会学研究科修士課程修了、  
イリノイ大学大学院心理学研究科博士課程修了。  
Ph.D.

---

1989 年東京大学文学部助手、1991 年東洋大学社会学部講師、1994 年北海道大学大学院文学研究科助教授 (2000 年同教授)、2008～2009 年 Residential Fellow (Stanford University, Center for Advanced Study in the Behavioral Sciences), 2009 年～2012 年 Global COE「心の社会性に関する教育研究拠点」(北海道大学) リーダー、2012 年社会科学実験研究センター長 (兼務)、2014 年 10 月より現職。日本学術会議会員 (第一部)。

専門は、意思決定科学、社会心理学、行動生態学。ヒトの社会行動のしくみを、“進化・適応のメタ理論”(亀田・村田 2010『複雑さに挑む社会心理学: 適応エージェントとしての人間』有斐閣) から研究している。「さまざまな不確実性を人々が社会的にどのように解き、集団としてのメリット(“規模の経済”)を実現し得るのか」という問題意識から、①社会規範や「正義」の概念の成立とその行動・認知・神経基盤の検討、②集団での意思決定や協同行為を支える認知・行動アルゴリズムの解明、③他者と関わる心(“共感性”)のしくみの理解、などに関心をもつ。脳科学、経済学、進化生物学、情報科学など隣接領域の研究者とのコラボレーションをすることが多く、分野の壁を超えて新技術・新知識を貪欲に取り入れたいと考えている。

主な著書に亀田達也・村田光二『複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間』(改訂版)(有斐閣、2010)、山岸俊男・亀田達也(編著)『社会のなかの共存』(岩波講座 コミュニケーションの認知科学、第 4 卷)(岩波書店、2014)、亀田達也(編)『「社会の決まり」はどのように決まるか』(フロンティア実験社会科学、第 6 卷)(勁草書房、2015)、『モラルの起源—実験社会科学からの問い』(岩波新書、2017 年) など他多数。

[http://www.tatsuyakameda.com/MEMBER/kameda\\_profile.html](http://www.tatsuyakameda.com/MEMBER/kameda_profile.html)